



優秀賞

「水郷佐原を彩る山車巡行」

📷 令和7年7月12日

～佐原・小野川沿い～

marさん

コメント 写真は佐原の大祭・夏祭りの山車巡行。名工の人形師達が手がけた大人形を載せた豪華な山車が、江戸情緒漂う小野川沿いを進む様子に圧倒されました。町が育んできた文化と誇りを強く感じました。

講評 撮影場所の小野川周辺は、かつて利根川水運で栄えた歴史を持ち、現在でも「生きている歴史」を肌で感じられる魅力的な場所です。ユネスコ無形文化遺産に登録された佐原の山車行事、重要伝統的建造物群保存地区に選定された町並みが美しく切り取られています。「町が育んできた文化と誇り」を感じ取ったという撮影者の視点、伝統を守り続ける人々の背中を優しく映し出しています。



優秀賞

「満月と白鳥の群れ」

📷 令和5年12月26日

～与田浦、十二橋駅付近～

KUROSUさん

コメント 十二橋付近の水田に白鳥が採食のため飛来していました。この年は何日も足を運んで、白鳥を撮影しましたが、満月と列車が良いタイミングで入りました。白鳥が飛来するような自然が未来まで続くようにと願いました。

講評 与田浦や十二橋駅周辺は、今も豊かな自然が残る香取の原風景とも言える場所で、この付近は沢山の白鳥や、水鳥が餌を求めて飛来する水鳥の宝庫となっています。満月、列車、そして白鳥という3つの主役を完璧なバランスで画面に収めた構成力が見事です。何度も足を運ばれた撮影者の情熱があったからこそ、この奇跡のような瞬間が形になったのだと思います。



優秀賞

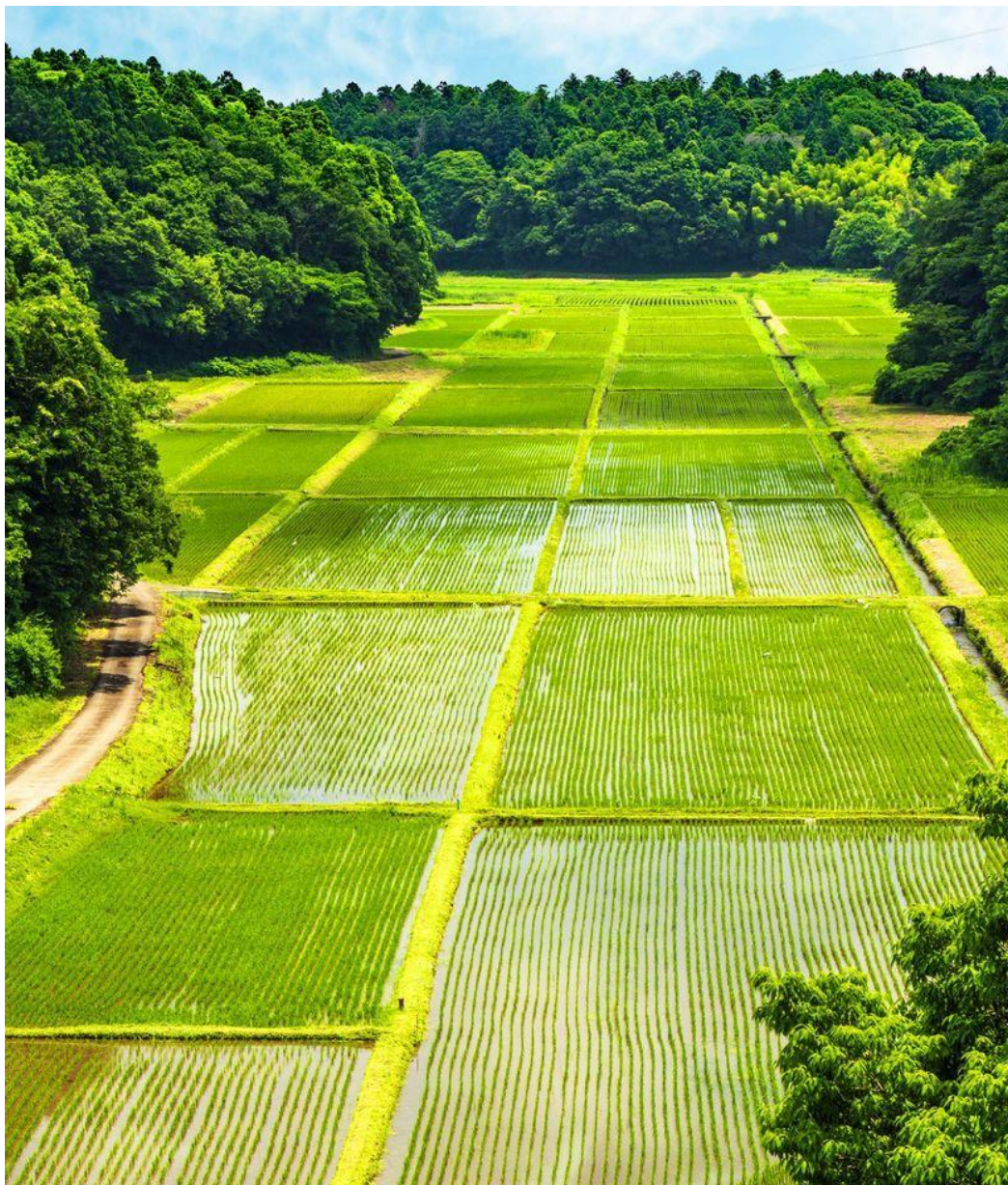
「稲刈りを終えた田んぼを渡る風になびくススキ」 📷令和7年10月28日

～黒部川河畔(小見)～

fuumonさん

コメント 田んぼのある風景は美しい。黒部川河畔をサイクリングしているとススキが風に揺れて、その先に二番穂の田んぼが見える。

講評 秋晴れの澄んだ空の下、黄金色のススキがさらさらと音を立てて揺れる、心地よい風の温度感がこちらまで伝わってくる一枚です。特に、ススキの穂一本一本が繊細に描写され、美しく撮れています。「二番穂が見える」というコメントから、収穫後の田んぼが持つ生命力と、季節が移ろう情景が見事に切り取られています。あえてススキを主役にし、遠景に田んぼを配した構図のバランスが秀逸で、この場所の新たな魅力を教えてくれました。



準グランプリ

「谷津田のパッチワーク」

📷 令和6年6月4日

～香取市沢～

みやちゃんさん

コメント 道の駅に来た折に「沢中白清水橋」まで足を伸ばしてみた。橋の中段から見下ろせば、南側は見事なパッチワーク……。谷津田の多くが後継者不足から耕作放棄地と化している中、この地のこの美しい景観は、地域住民の熱意と努力の賜であり、これぞ後世に引き継いでいくべき香取の里山景観だと、改めて思いを深めた。

講評 まるで丁寧に織られたパッチワークのように、鮮やかな緑が美しい調和をもたらしています。「沢中白清水橋」から見下ろすこの景色には、観光地の華やかさとは異なる、日常に根付いた静かな美しさが広がっています。コメントにある通り、後継者不足という厳しい現実に向き合う地域の方々の「熱意」があるからこそ、このような輝くような緑が保たれているものと思います。単なる風景写真ではなく、地域への深い愛情を感じる作品です。



準グランプリ

「光たちの絵画」

📷 平成27年8月1日

～小見川花火会場～

YSさん

コメント 100年以上の長き歴史を感じさせる、様々な花火が織りなす光の絵画は、ため息の出るような美しさです。ひとつとして同じシーンはなく、また瞬間を逃すまいと、まばたきするのも惜しくなります。

講評 お写真を拝見した瞬間、ズドンと体に響く大きな打ち上げ音が聞こえるようです。「光たちの絵画」というタイトルの通り、夜空をキャンバスに見立て、特に、あえて花火をフレームから見切れさせて配置した構図が秀逸です。これにより、写真の外側にもさらに大きな光が広がっているようなスケール感が生み出されています。100年以上の歴史を誇る「水郷おみがわ花火大会」の重みと、一瞬の美しさを逃したくないという撮影者の情熱が、この迫力ある切り取り方に凝縮されています。



グランプリ

「朱の門」

📷 令和7年11月30日

～香取神宮 総門～

齋藤 裕一朗さん

コメント 香取神宮の総門を、紅葉とともに捉えました。超広角レンズを用いることで紅葉の広がり強調し、光条を入れることで神域らしい厳かさを表現しています。変わらず人々を迎え続ける、未来に残したい香取市の風景です。

講評 晩秋の柔らかな光が紅葉を透かし、朱色が映える楼門。香取神宮の秋を美しいグラデーションで見事に捉えた一枚です。この写真は、事前に丹念に調査し、絶好のタイミングを狙った撮影によるものと思われます。難しい下部の石畳を巧みに取り込み、洗練された構成力が光る作品となっています。超広角レンズを活用することで紅葉の広がりを際立たせ、見事な光条を捉えた撮影技術が、神域の厳かな雰囲気さをさらに引き立てています。この風景を次世代に伝えたいという撮影者の真摯な想いが、写真を通じて静かに響く一枚です。